

隣の国、韓国

アジア文化学科4年 百津 志帆

この研修に参加した理由は「アジア文化学科なのにアジアの国々に行ったことがないことを私自身恥ずかしく思っていたので、日本から近い韓国に、この機会に一度行ってみようと思ったからです。」後で韓国研修の実施スケジュールを見てみると、内容がとても充実しており、中でもとくに「板門店、東大門市場、清溪川散策、成均館大学院生達との交流会」に興味を持ちました。行く前のイメージは、板門店は韓国、北朝鮮の境目ということもあり行きたいけど行きたくない、行った時に何か事件に巻き込まれるのではないかなど、とても恐ろしいイメージをもっていました。東大門市場、清溪川散策は、綺麗な場所なのかなというイメージで、成均館大学院生達は、どういう人達なのだろうとドキドキしていました。

実際、板門店に行った時は、頭の中に恐ろしいという文字しかなく韓国、北朝鮮の境目に辿り着いた時には、冷や汗が滲み出ていました。しかし、ガイドさんの説明を聞いていると韓国と北朝鮮は、思っていたほどピリピリしていた関係ではなく、韓国側は北朝鮮に食料など支援をしていて、北朝鮮とひとつの国になりたいと思っているようでした。韓国の人達は優しいなと思ったと同時に、北朝鮮もしてもらえばかりの立場ばかりではいけないと思いました。



写真1「帰らざる橋」

2008年3月20日板門店にて撮影

東大門市場は人がとても多く、ゴミも落ちていて町が汚れていました。しかし清溪川では、人は東大門市場と同様多いけれども、町は綺麗に整備され、夜はライトアップまでされていて、人工的に水を流しているため綺麗でした。同じソウルの町でも場所によって町の様子に違いが出てくるといのは、韓国が急激に発展している過程の中で違いがでてくるといことが伝わってきます。

成均館大学院生との交流会に参加したことで、私自身を見つめ直すことができました。院生の人の学校生活を聞いてみると、授業時以外は24時間開館している学習室ですと勉強をしているとのことでした。あまり家にも帰らず、お風呂は学校の近くに安くて入れるお風呂屋さんがあるので、そこで済ませ、又学習室に戻って勉強をするそうです。そこまで勉強をする理由は、韓国は就職率がとても悪く、勉強をしなくては希望の就職口につけない状況に立たされているのです。この話を聞いた時、私は驚きもあり、情けないと思いました。院生の人達は一生懸命、努力をしているのにも関わらず、私には全く努力が足りない、勉強をする時間が少ないと思いました。同じ学生で、こんなに差があることを恥ずかしく思い、見習わなければいけないと思いました。



写真2「成均館大学図書館にて」

2008年3月19日成均館大学にて撮影

今回の韓国研修に参加して学校の授業では体験できないことを体験することができ、考えさせられ、非常に得たものが多い研修になりました。日本とは違う別の国に足を運んだことで、最初は不安も多々ありましたが、それ以上に自分自身の考えが変わり、これから行動していく道筋が又見えたものとなりました。